

青少年の非行防止に取り組む

10年後、50年後の南あわじ市を見据えて

将来の日本を担う、青少年の健全育成は、国民共通の課題です。夏休みが始まる七月は、内閣府などが主唱する「青少年の非行問題に取り組む全国強調月間」です。これにあわせて、南あわじ市においても、地域住民、関係機関・団体が連携し、非行防止のための諸活動を集中的に実施しています。



▲夏祭りで子どもたちを見守るPTA役員ら（市）

補導員やPTA、教員らによる夜回り

長期間学校を離れ、子どもたちが地域の中で過ごす夏休み。様々な誘惑に駆られ、犯罪や事故に巻き込まれたり、犯罪を犯したりしないよう、市青少年補導委員や保護司、学校の教員らが夜間、子どもたちが集まりそうな場所を巡回し、目を光らせています。

七月十一日、市中央商友会納涼祭では、市小学校PTA愛護部の役員ら七人が腕章をつけ、訪れた子どもたち一人ひとりに目を配り、声をかけました。

七月二十四日には、市青少年補導委員や防犯協会支部長、学校の教員、警察署員らも「一斉補導」を実施。これを皮切りに各地で夏休み期間中、街頭補導を続けています。

コンビニ店長らも対策



▲コンビニ店長らによる深夜スーパー防犯対策協議会

深夜経営を営む市内の全コンビニエンスストアの店長らで組織する「南あわじ深夜スーパー防犯対策協議会」が七月七日、南あわじ警察署で開かれました。

同会は平成十二年に設立、毎年定期的に防犯等に関する情報交換や研修を行っています。

情報交換会では、深夜の駐車場が二十歳前後の青少年のたまり場となっている現状などが報告されました。南あわ

豆知識

非行とは？
道義に反した行為。不正行為。青少年の社会の決まりなどにそむく行為。法律違反およびその潜在的可能性をもつ行動。

非行の前兆行動（サイン）

非行に走る少年たちは、誰かに自分の犯罪を止めてもらいたい、自分の苦しい気持ちをわかってもらいたいというサインを、本人が自覚しないままに発しています。

少年に良い環境づくり

少年の非行を防ぐ大切なことのひとつとして、「意味ある他者への愛着」が挙げられます。言い換えると、
▽親との親和的な感情
▽友だちとの友情
▽地域の隣人たちとの連帯感
などです。少年を取り巻く人間関係の絆ができていれば、非行や犯罪などが抑えられるということなのです。

警察署からは、「他のお客さんに迷惑をかけていることを気づくよう、意思表示することが必要」などと助言がありました。

社会を明るくする運動

非行少年の更生に取り組む保護司が中心となって、関係団体とともに、犯罪や非行のない地域社会づくりを呼びかける「社会を明るくする運動」が七月一日と四日に市内で行われました。同運動は罪を犯した者の更生について理



▲街頭で非行のない明るい社会づくりを呼びかける関係者

解を深め、地域が連携して非行のきっかけを摘もうという全国的な取り組みです。参加者は量販店等で、チラシや啓

発用品などを配りながら非行防止を呼びかけました。

市民の結束を誓う

青少年健全育成市民会議

家庭や地域社会、学校、行政等がそれぞれの責任と役割を自覚し、連携を図りながら共通の目標・方針を持つて取り組んでいくことを誓い合う「南あわじ市青少年健全育成市民会議」が七月十二日、西淡公民館で行われ、関係者四百人が出席しました。会議では北口勝啓さんから

困ったときに、周りが支えて

私の人生を振り返ると、自分が困難や壁にぶつかったときに親身になって支えてくれた人が周りにいたおかげで、目標に向かって努力でき、実

現することができました。高校進学を許してくれた親父を、粘り強く説得してくれた高校の校長先生。経済的に恵まれた環境とはいえ

北口勝啓さん

なかった野球部に、衣服や道具類、食料の支援をしてくれた地元の人たち。東京で夜間大学の学費を支援してくれた淡路島出身者など。



【北口勝啓氏プロフィール】
昭和28年第25回選抜高校野球大会で洲本高校の投手として初出場・初優勝を飾る。東京でアマチュア野球の選手、指導者として活躍。現在、(財)淡路人形協会理事。

スランプや悩み、壁、病気などに直面したときこそ、周りの大人たちが支えてあげないと青少年は曲がっていきま

家庭や学校などで様々な悩みを抱えている青少年やその保護者のために、南あわじ市では、七月十日から西淡庁舎の青少年育成センター内に「青少年なんでも相談室」を開設しました（二十一日に関連記事）。専門の相談員が秘密厳守で様々な相談に対応しています。



▲7月に開所した青少年なんでも相談室

悩み事なんでも相談 相談室が開所

「人との出会い」をテーマに講演がありました。続いての決断宣言では、「育てようところからだと思いやり」をスローガンに、①あいさつ運動の推奨②地域の環境浄化の推進③ボランティア精神の育成④青少年の居場所づくりの普及を活動目標に、市民一人ひとりが意識を持って推進することを誓い合いました。

データ

県下の少年非行の現状

全刑法犯の約四割を少年非行が占め、凶悪化、低年齢化の傾向が高まっています。（平成十七年中、警察本部少年課統計資料から）

